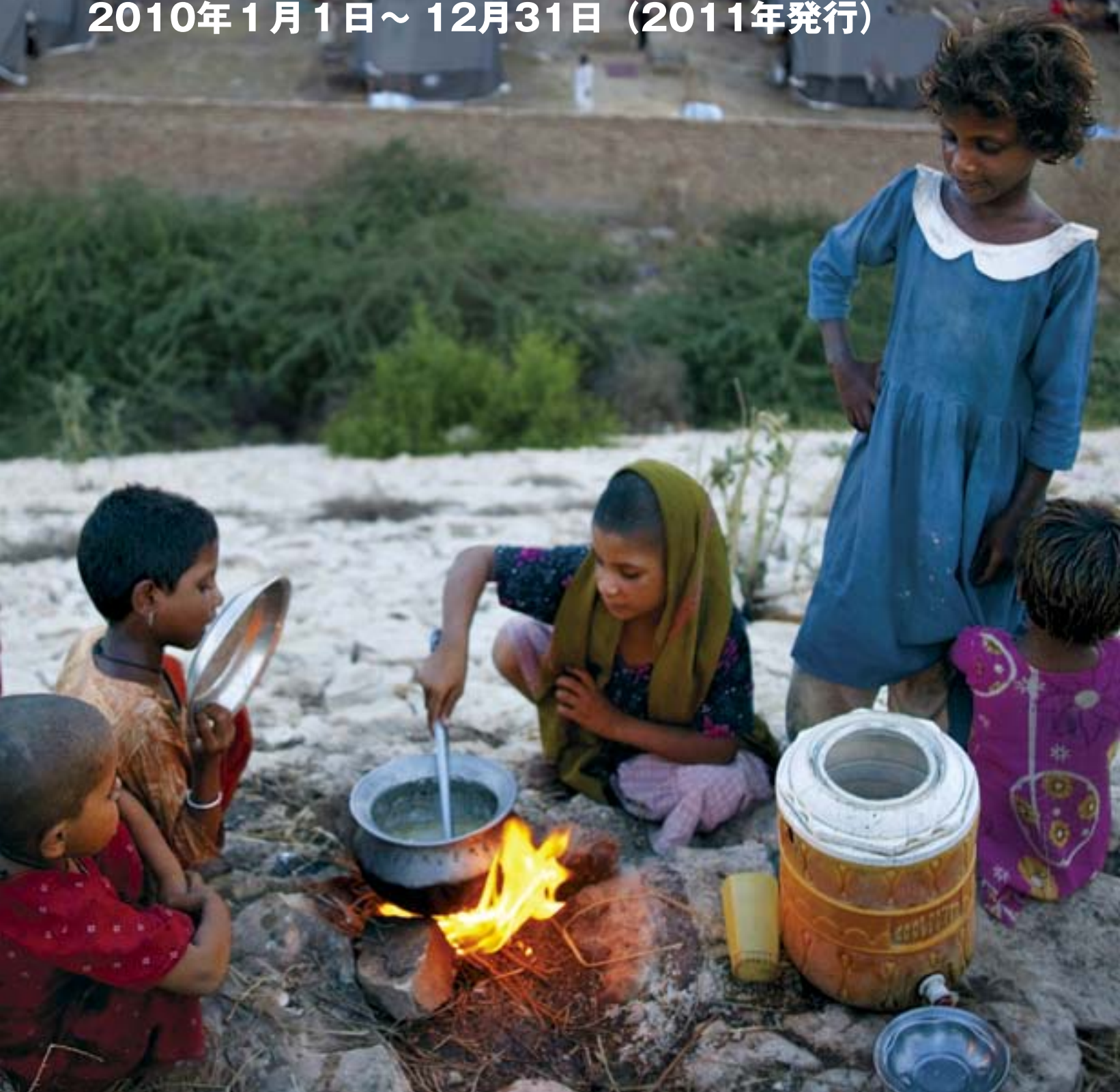


ユニセフ年次報告2010

2010年1月1日～12月31日（2011年発行）



unite for
children

unicef 

表紙写真

©UNICEF/NYHQ2010-1636/Ramoned

2010年8月、シンド州にある町サッカルで焚き火を使用して料理をする子どもたち。彼らの背後ではキャンプテントが張られている。彼らの家族は、被災者キャンプが満員で入ることができない為、その周辺に留まっている。(パキスタン)

本書に掲載されている情報の出典について：本書に掲載されているデータは、ユニセフ（国連児童基金）、そのほかの国連機関、ユニセフの各国事務所が提出している年次報告、ならびに2011年6月に開催されたユニセフ執行理事会に提出されたユニセフ事務局長の年次報告に基づく。

本書に記載されている資金（表記）について：断り書きがない限り、すべての額は米国ドルである。

ユニセフ年次報告2010

(2010年1月1日～2010年12月31日)

目次

	はじめに	2
	第1章： 公平性のある開発	4
	第2章： 健康という基盤	10
	第3章： 万人のための教育	18
	第4章： 子どもの保護における公平性	24
	第5章： 行動に向けたアドボカシー	30
	第6章： 危機下の最も脆弱な人々への支援	36
	第7章： 成果を導く業務	42

はじめに

2010年は、ユニセフ（国連児童基金）にとって極めて重要な年であった。

なぜなら、最も脆弱な子どもたちに支援の手を差し伸べる、というこれまで重点を置いてきた取り組みを、私たちがさらに強化し始めたからである。



昨年は、この新たな取り組みの緊急性が、繰り返し明らかにされた年であった。とりわけハイチとパキスタンにおいてである。緊急事態や危機的状況が生じるたびに、子どもたちが搾取や虐待にさらされるリスクが高まっており、特に不利な状況に置かれている子どもたちの場合には、それがさらに深刻なものとなっている。

また、富裕層の子どもたちと貧困層の子どもたちとの間の格差がさらに拡大していることを示す憂慮すべき新たな事実も、目の当たりにした。この現象は、ミレニアム開発目標（MDGs）の達成に向けて全般的な前進を見せている国々においてさえも生じている。こうした不公正な状況の広がりには、ユニセフに、最も困難な状況に置かれた子どもたちやコミュニティの支援には費用がかかりすぎる、という従来からの一般的な見方の見直しを迫った。私たちの疑問はこうであった。「最も不利な立場に置かれている人々が最も支援を必要としているのであれば、そしてそれらの人々を支援するための新しくより効率的な戦略と手段があるのなら、そうした最も脆弱な人々の支援に注力することによって確実にもたらされるメリットは、そのために必要となる追加費用を補って余りあるのではないだろうか」と。

綿密な分析に基づき、その答えは「イエス」であった。より貧しい国と中所得国のいずれにおいても、最も不利な立場に置かれている子どもたちの支援に重点を置くことは費用対効果が高く、また子どもの死亡率の削減と妊産婦の健康の改善に関するMDG 4 および5の達成に向けて、現在のやり方よりも効果が大きい。

このことは、とりわけ財政的な逼迫が続いている中、画期的で素晴らしいニュースである。その意味合いは、ユニセフにとっても、また国際連合（以下「国連」）や世界各地の人々の発展にとっても、極めて大きい。公平性に重点を置いたアプローチは、原則としても実践の面でも正しいものである。

この年次報告書で示されているように、ユニセフの多くのカントリー・プログラムは、不公平の是正に向けてすでに前進しつつある。私たちは、その取り組みをさらに継続させ、拡大させるに当たり、専門知識、コミットメント、成果という強力な基礎を足掛かりにしている。また私たちは、さらに大きく支援を広げる決意も固めている。なぜなら私たちは、一部の子どもたちに対してではなくすべての子どもたちに対して責務を負っているからである。

支援に向けた取り組みを倍加させるにあたり、私たちはこの課題を前進させることのできるすべてのパートナー（政府、開発分野の専門家、市民社会、国連コミュニティ）に対して公平な開発を提唱する。またより公平な発展の実現は、共同の努力を通じてのみ可能となるため、パートナーシップを中心に据えるつもりである。私たちは、国連のより協調的な活動を支持していく。共通の大望を抱く組織がそれぞれのプログラムを持ちよりまとめあげることで、政府による国家目標の

達成や人々の幸福の向上に、更なる貢献ができるからである。

2010年の終盤から、ユニセフはすべての活動において公平性に重点を置くようになった。いかなる活動においても成果が最優先されるという原則に基づき、私たちは、どのようにすればカントリー・プログラム、スタッフの配属、(様々な)資源、そして丁寧に進捗状況を評価する能力を、最も賢明かつ慎重に活用できるかを検証しているところである。私たちの最優先事項となるのは、貧困が最も深刻になっている国々の能力を強化することである。これは低所得国であるか中所得国であるかにかかわらず、大多数の人々が置き去りにされているすべての国を対象とするものである。

私はユニセフに参加した最初の年に、本組織が活動している22の国を訪れた。訪問したどの国、どのコミュニティにおいても、公平性に重点を置いたアプローチが子どもたちの生活にどれだけ大きな違いをもたらし得るかを私は目の当たりにしている。私たち全員が協力してそれに取り組めば、もっと大きな成果をもたらされる可能性を秘めている。世界の子どもたちは、その恩恵を受けて当然である。



アンソニー・レーク
ユニセフ事務局長

